

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（6月分）

留学先：ヴィリニウス大学

氏名：高橋大輔

こんにちは。リトアニアのヴィリニウス大学に交換留学をしている国際地域学部3年の高橋大輔です。ヴィリニウス大学ではシステム上、5月下旬から6月上旬が学期末試験期間とされています。試験が終わって少し経てば、続々とスーツケースを引いて帰国する学生の姿が見られます。

### 【留学期間】

ヴィリニウス大学に2018年秋から留学し始めた日本人学生は7人で、そのうち4人が秋学期からの一年留学をしていたそうです。一方で、2019年春から留学し始めた日本人学生は5人で、そのうち2人が春学期からの一年留学を決めています。

国を問わず、前学期に知り合った交換留学生のほぼ全員が半年間の留学を終えて帰国し、また韓国からやってきた20人以上もの学生の中にも誰一人として一年間の留学をする人はいませんでした。



### 【冷蔵庫の生ハム】

食中毒にかかりました。誰も居ない寮で発熱、頭痛、腹痛、下痢に見舞われ、ひどいときには、朝のうちにトイレに9回駆け込み、夜に目眩で倒れるなど、何も出来ないくらい辛い状況でした。

そこでグーグルマップで営業中の病院を見つけ、訪ねることにしました。リトアニアのバスは揺れがひどく、またタクシーを呼ぶアプリも入れてなかったのが、2.9 km（徒歩40分）先でしたが頑張って歩きました。しかしその病院は工事中で中には入れない様子でした。内科の病院は徒歩圏内ではその病院以外に無かったので急遽 Bolt というタクシーのアプリを入れ、7.4 km（車で12分）先の病院に向かうことにしました。料金は4.7€（約573円）でした。そして無事に診察と注射、処方薬を受け、体調は回復しました。



### 【人生初の通訳の感想】

BalticAsiaというアジア人向けのリトアニア観光案内やアジアに関する情報発信をウェブ上で行うリトアニア人の団体があり、時折、テキストの日本語訳を頼まれます。ある日その団体から、日本からやってくる女性の日英通訳をしてほしいと頼まれたので引き受けたのですが、人生初の通訳の感想としては、難しい、に尽きました。

まず、話し手でもなければ聞き手でもない通訳という立ち位置にかなり戸惑いました。その女性は日本語とドイツ語以外は話されないため、言葉の通じる私の目を見て矢継ぎ早にお話しされるので、話を切ろうにも切ることができませんでした。さらに話が長くなればなるほど、その内容が複雑になって英訳するどころか内容を覚えることすら難しくなりました。

また、英語から日本語にする際には、英語で言われていることを完全に理解しないと自分のせいで双方に誤解をもたらすという状況にプレッシャーを感じました。ただの会話であれば、多少理解できなくてもスルーはできるが、通訳でスルーをすれば聞き手は不安を感じるので、この点も普段の会話との相違点でした。

サービス業で大切な“笑顔”ですが、一回目の通訳の時は緊張でまったく笑顔になれず、こうした焦りが相手に伝わってしまうので、異国の地で不安な相手をさらに不安にさせてしまい申し訳なく感じました。その日、その女性からいただいたチキンラーメンはとても美味しかったです。



### 【夏休み】

夏休みですが、ルームメイトや他の友人はみんな次第に帰国し始め、気心の知れたリトアニア人の男友達も居ないため、ひとりでリトアニアにいます。恐らくは旅行に行くのが夏期休業中の王道なのですが、独りで旅行に行っていきたい何をするのかと考えているうちに旅行に行くのを辞めていました。他の国に留学に行っている友人と会う選択肢もありましたが、彼らのようにまともな留学生生活を過ごせていないので気が引けるというのが本音です。

